



暮らしと農がリンクする
都市農業の今を伝えるJA京都市メディア

vol.4

Link

特集

- 地域生産者と酒米オーナーが広げる
「嵯峨酒づくりの会」の輪
- 生産者と触れ合う「街中農業体験」
深草から広がる農業×都市の新しい関係

地域生産者と酒米オーナーが広げる 「嵯峨酒づくりの会」の輪

守りたい古都の原風景

歴史的風土特別保存地区に指定されている嵯峨地域では、地域の生産者と応募された一般の方が協力して日本酒の酒米をつくっています。このユニークな会を発足当時から支えてきた山田さん、北川さんにお話をうかがいました。

#農業体験 #地産地消

詳しくは
Webで



#ここから生まれるつながりと思い出

「嵯峨酒づくりの会」は京都市内で運営されている農業体験イベントとしては歴史、規模ともに抜きん出ているといわれています。市内中心部からアクセスしやすく、日本酒ファンだけでなく、土や植物に触れたい人、子どもに農業を経験させたい家族連れが参加しやすい点も、会が存続・発展してきた理由です。また、酒米のオーナー制度という仕組みが、ビジネスモデルとして優れているだけでなく、生産者と農地、一般市民をつなげる役割を果たしている点にも特筆すべきものがあります。農業と市民をつなぎ、価値を生み出して地域に還元する。そんな都市農業が目指すべき一つの理想を27年前から追求してきた「嵯峨酒づくりの会」には、学ぶべき点が数多くあります。



「稲刈りをはじめとする農業体験やイベントは、JA京都市の皆さんに助けてもらってます」(山田さん)

#逆風の中ではじめた酒づくり

「嵯峨酒づくりの会」は、京都市の歴史的風土特別保存地区に指定されている右京区嵯峨の水田で、毎年酒米を栽培・収穫し、日本酒「げっしょう」を製造しています。スタートしたのは1996年のこと。当時の減反政策の対象外である酒米の栽培に着目し、京都に伝わる酒米「祝」を栽培し、伏見区の齊藤酒造が酒造りを行っています。この会のユニークな点は、地域生産者だけでなく、一般から募った「酒米のオーナー」が運営に参加する仕組みにあります。1口1万円を支払うことで酒米のオーナーになれば、田植え・稲刈り体験や酒蔵見学といったイベントに参加できるほか、できあがった「純米大吟醸げっしょう」も贈られます。

#田植えからお酒の完成まで、喜びを共有

初年度は約70名のオーナーを集めて活動をスタート。収穫体験では機械に頼らず昔ながらの農業が体験できること、また「げっしょう」の評判が広がったこともあり、徐々に人気を集め、多い年で230名以上がオーナーに名を連ねるようになりました。京都からの参加が中心ですが、大阪や兵庫、遠いところでは関東や北陸から参加するオーナーも。8月には豊作を祈って「かかし祭り」を開催。オーナー手作りのかかしが田園風景に彩りを添える名物行事になっています。



お話ししてくれたのは…

北川 美一さん(左)、山田 耕司さん(右)
JA京都市嵯峨支部

九条ねぎや水稲、小松菜を生産する山田さんと、多品目の農産物の生産・小売りを営む北川さんは、生家が隣同士で幼馴染み。嵯峨酒づくりの会の創設メンバーであり、1996年から現在まで運営を支え続けています。

<https://sagasake.hatenablog.com>

嵯峨酒づくりの会 Webサイト▲





特集

生産者と触れ合う「街中農業体験」

深草から広がる農業×都市の新しい関係

京都市伏見区深草で少量多品種の農業に取り組む京都風緑の杉井 正治さん。
ビジネスマインドをもった生産者であり、深草の竹林問題にも深く関わるなど多彩な
顔をもつ杉井さんは、独自の農業体験も展開しています。

農業体験 # つながる

詳しくは
Webで



消費者と直接触れ合う 杉井さんスタイル

伏見区深草の生産者、杉井 正治さんはタケノコに金柑、九条ねぎにレモンなど、年間約70種類もの農産物を生産。住宅街のそばにある約1,000坪の農地で、土地のポテンシャルを最大限に活かした少量多品種の農法を実践しています。

もう一つの特徴が、一人ひとりの顧客に直接販売するスタイルです。杉井さんがLINEでその日のおすすめ野菜を発信すると、購入を希望する顧客が農地を直接訪れ、収穫した野菜を量り売りしています。希望すれば杉井さんと一緒に畑に入って収穫してもらうこともでき、軒先での対面販売と農業体験が合わさったような販売スタイルを実践しています。

「ストーリー」のある農業体験

杉井さんはこれまで農業法人風緑を立ち上げ貸農園事業を営んだ経験をもつほか、近年は株ビオスタイルが手掛ける「GOOD NATURE STATION」と提携して農業体験アクティビティもスタート。また京都大学や龍谷大学の学生の体験・見学も受け入れています。こうした体験では杉井さんからさまざまな話が聞けることも楽しみの一つ。「ブルーベリーがスズランのように下向きに花を咲かせるのは、雨が入らず、受粉もしやすいから。受粉するとすぐに上を向くのは、お日様を受けて栄養をつくりたいから。ブルーベリーはよく考えてる、偉いわ(笑)」。こうした、生産者だからこそ語れる「ストーリー」の数々が、農業体験に深みを与えてくれます。

主な収穫品目

- 春 タケノコ・イチゴ・アスパラガス・タラの芽
- 夏 トマト・ナス・キュウリ・ブルーベリー
- 秋 栗・柿・レモン(秋から冬にかけて)
- 冬 キンカン・ダイコン・ニンジン・ヒラタケ



「自分の体に合わない」と農業を使わず栽培。食べごろの野菜はおいしさがたっぷりです。

農地がコミュニティに

近年では、竹の生育土壌を利用してレモンの栽培に成功。また、長く取り組んできた竹林管理や、おいしいタケノコをつくるノウハウも後進に伝えています。「レモンや直接販売は、今の時代に合わせてやるようになったこと。30年後には世の中はもっと変わってるはず。農業もそれに合わせて、どんどん変えていけばいいんです」。常に旺盛な好奇心とオープンマインドを発揮し、新しいことに取り組む杉井さん。その人柄や姿勢に引き寄せられるように、地域の消費者や飲食店、企業、学生など、さまざまな人たちが集まり、交流が生まれ続けています。



収穫中も味やおすすめの食べ方など、話が弾みます。

お話ししてくれたのは…

杉井 正治さん

JA京都市深草支部

NPO法人「竹と緑」を立ち上げ、竹林整備や環境保護に尽力し市民農園事業も展開。現在は京都風緑にて「伏見レモン」をはじめ、多品目・高品質な農業に取り組んでいます。

杉井さんの農場(京都風緑)

京都市伏見区深草坊山町41-10

京都風緑での農業体験はGOOD NATURE STATIONのWebサイトからお申込みいただけます▶





参加すれば、 誰もが生産者に!

JA京都市が運営する
レクリエーション農園

「農地は都市部にあるべきもの」と都市農業への価値が見つめ直される昨今、JA京都市では2022年10月に「レクリエーション農園(体験農園)」を開設し、市民が「農」に触れる場を提供しました。「参加すれば、誰もが生産者に」。JAの強みを活かし、都市農業の価値を発信しました。

「農業をやってみたい」を かたちに

JA京都市は全国有数の都市部に位置し、消費者からも「農業体験に興味がある」など都市部で農業する価値は徐々に高まっています。「レクリエーション農園」ではJAが地域と農をつなぎ、市民の「農への入口」を目指します。農園には種苗や農具の準備をしているので、利用者はいつでも気軽に作業できます。また、JA職員が定期的に駐在しているので、困った時もその場でレクチャーを受けられるのが特徴です。

収穫の喜びを分かち合い、 農園が地域住民をつなぐ コミュニティに

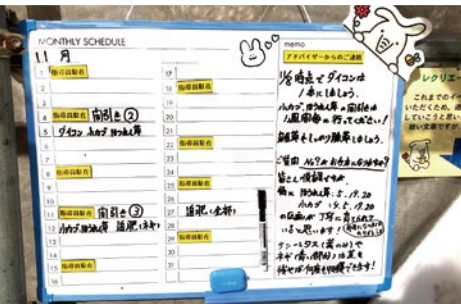
利用者は割り振られた区画で野菜を栽培します。「野菜作りがはじめて」の方が大半で、毎日来る方から週に1度来る方など様々で、野菜へ注ぐ愛情は我が子のように。

また、農園は単なる生産現場だけでなく、家族や友人といった人をつなぐ「ハブ」のような役割を担うようになりました。農園には常に温かい雰囲気に入れ、収穫時期を迎えた12月には利用者や家族が集まって「収穫祭」を開催し、収穫の喜びを分かち合いました。

体験期間は2月をめぐりにいったん終了となりますが、「都市農業を考えるきっかけになった。今後も続けてほしい」と利用者からは継続を望む声も多数あります。今後も当JAでは、市民に「農」に触れる場を作り、都市農業への理解醸成に努めてまいります。



◀ 収穫だけでなく、種まきや間引き、雑草取りといった日々の農作業の積み重ねを体験できるのは、レクリエーション農園ならではの。



▲ 農作業のスケジュールをまとめた掲示板や栽培記録は利用者が楽しみながら農業を理解するお役立ちツールに。



▲ 12月の収穫祭では大根・カブの2部門で「野菜コンテスト」を開催。立派に育った野菜の大きさを競いあう、大変賑やかな催しとなりました。



**お野菜が育った物語と
採れたての旬のおいしさを。
Gg's = Green grocery's**

Gg'sが運営する「晴れときどき雨、のちお野菜」は、毎週日曜にだけオープンする八百屋さん。風情ある町屋に構えた小さなお店には、上賀茂や山科をはじめとする京都の契約農家のお野菜がずらりと並んでいます。店頭で「生産者さんと一緒に畑に入って、お世話をしていたトマトを初めて収穫したときには、“おいしい”以上に“うれしい”味がしたんです!」と語ってくれたのは店主の角谷さん。生産者さんの想いやお野菜が大事に育てられたストーリーを大切に、おいしいお野菜と一緒に届けています。



昔ながらの京野菜や西洋野菜など、ラインナップは多彩。



晴れときどき雨、のちお野菜

〒603-8175
京都市北区紫野下鳥田町23-1
毎週日曜 正午から18時頃まで営業

@ Instagram@ggs_kyoto →
ECサイト
https://ggs.theshop.jp/



Link vol.4
2023年2月発行

Link web HP Instagram



発行/ JA京都市 総務企画部 地域振興課
〒615-0046 京都市右京区西院西満崎町24
TEL:(075)314-0898

農産物のために 地域のために 暮らしのために
JA共済の地域貢献活動

